



善頭エッセイ

はつだて旅便い

「今日もぷらぷら」

82

「この夏は函館を拠点に粉もん巡り？」

文月 齊 (ふみつき さい)
埼玉県出身。
人と街、自然と文化を題材に、
みちくさばかりの旅を続ける
エッセイスト。
函館、埼玉、大阪を拠点に
旅を満喫中。

前略、変わりはないか？
毎日猛暑の話題が尽きないけど、今年も夏休みを利用してこっちに来るのかな。君の暮らす西の町ではまだまだ猛暑が続くだろうから、数日間だけでもこっちにきて身体を休めるといいよ。天然のクーラーの効いた函館に来れば、身体も楽になるはず。涼しい函館で身体を一度リセットして、残暑の厳しい夏の後半に備えるといいよ。こっちに来る時は今回も飛行機を利用するのかい。いや、移動にあまり時間を取られたくないのはわかるけど、飛行機であつさり飛び越えてしまうにはもったいないものが東北エリアには多いから、寄つて来たらどうかなと思つてね。というのでも先日、青森県の八戸市に行つてきたんだ。新幹線に乗つていくことは何度もあったけど、旅の目的地として訪れたのは今回が初めて。新幹線に乗っていると、結構な数の旅人が八戸駅で降りるので、何か面白いものがあるのかなと気にはなつていたんだ。いやいや、何かなんてとんでもない、もつと早くから行つておくべきだったと後悔したよ。青森県にはこれまでも県庁がある青森市をはじめ、弘前市や津軽半島、下北半島などを訪れたことがあつたので、きつと八戸も同じような感じなのだろうと高を括つていたんだけど、これがまったく別ものなんだ。もともとこのエリアは南部氏が治めていた八戸藩の中心地で、ほら、函館山に登るロープウェイ乗り場の横に「南部坂」という急な坂があつたでしょ。あの南部の大名とがこさささというより、食いしん坊の君には、あの美味しい南部小麦の産地と説明した方が分かりやすいか。現代でこそ青森県としてひと括りにされてしまうけど、かつての藩にはそれぞれの藩で育まれた文化があるものなんだ。今回それがよく分かつたのが特産の小麦を使った料理。君の暮らす町も粉もん料理が有名だけど、ここ八戸エリアも独自の粉もんの食文化が発展しているんだよ。そんな粉もんが一度で堪能できる場所があるというので足を運んだのが、出店者数約300、日本最大級の朝市として話題の館鼻岸壁朝市。看板に偽り無しとはまさにこのことだね。活気といい、品数といい、庶民派の価格帯といい、これぞ「ザ・朝市」。パン窯を持ち込んで焼きたてパンを売つてみたり、やさそばを詰め放題で売つてみたり、とにかくライブ感が凄いな。厚めのワントンのような「かつけ」や、赤飯を特産の南部せんべいで包んだ「こびる」、そばめしを大きな餃子の皮で包んで焼いた「まくべえ」など、これまで接したことのない粉もんグルメを買ひ漁つてきたけど、どれも美味しく南部の小麦文化の実力を思い知らされたよ。函館からだとは新幹線を使えば新函館北斗駅から八戸駅まで1時間半ほどで行けるんだけど、日の出からスタートするというので、今回は津軽海峡を渡るフェリーに車を積んで行つてみた。5時には着いたのに、すでに「完売」の札が出ているお店もあつて、どれだけ人気なのかうかがい知れるね。そんなところに行つたら身体どこるか胃が休まらない？ そうなんだよ。函館に着いてから車で一緒に行つてもいいんだけど、日本有数の漁港でもある八戸港周辺は、ヒラメの漬け丼や、ウニ、ホヤ、アンコウなど日本酒に合う海の幸も豊富だね。お隣の九戸町は馬肉で有名な町だし、すでに君は気づいているだろうけど、八戸には「陸奥八仙」という美味しい地酒まであつて、身体を休めるどころじゃなくなるかなあ...と、え、胃も肝臓も疲れさせたい？ ははは、そう思うと思つたよ。一緒に行くとしよう。もちろん君のおごりでね。それじゃあまた。



法人会は会社経営の効率化のためにe-Taxの普及を支援しています。

さらに詳しくはWEBへ

イータックス

検索